



第14号

港北区体育指導委員  
連絡協議会広報紙

# 活き生き体指

KOHOKU

No.14

平成13年3月21日発行

発行者  
港北区体育指導委員連絡協議会  
編集  
港北区体指協広報委員会  
事務局  
港北区大豆戸町26-1  
港北区役所地域振興課内  
☎ 045-540-2240  
FAX 045-540-2245

## 第16回港北駅伝大会 開催日:平成13年2月4日(日)/会場:鶴見川河川敷

港北区体育指導委員連絡協議会  
駅伝委員長 小沢正信

例年がない寒い冬を迎え、1月21日に予定しておりました第16回港北駅伝大会が前日の雪で延期となり、2月4日の開催となってしまいました。初めての予備日実施となりましたが、2週あけたことが幸いして(その前の週も大雪でした)無事開催することが出来ました。

受験シーズンに入ったことや昨今の生活様式の多様化などから、選手の調整や交代には難しいものがあり、メンバー編成に関しては各チームとも苦労されたと思います。役員の皆様にも他行事との兼ね合いで不都合があったことと思います。エントリーチーム中4分の1の棄権があったのも致し方のないところであり、年々にぎやかになっていた応援席も心なしか静かだったように見えました。

少子・高齢化が騒がれる中、また選手の他競技への分散化と、年々参加者が減少しています。今回、港北区内在が学区ということで隣接区の中学校の参加がありました。参加チームの増加を図るに関しては以前から駅伝会

議で議題としてあがってはいましたが、これからも皆様のご意見等を伺いながら検討していきたいと存じます。

駅伝競走ではタスキをつなぐことが大事なように、本大会も無事、次回につなげることが出来ました。港北駅伝大会の益々の発展を期待し、誰もが楽しく参加できるように今後とも頑張りたいと思います。



◀ゴール!



### ▼第16回港北駅伝大会成績

部 別	連合町内会の部	一般男子の部	一般・高校女子の部	高校男子の部	中学男子の部	中学女子の部
参加チーム数	14	6	1	3	21	9
区 間	9	6	6	6	6	6
距 離	24km	24km	24km	24km	16km	16km
優 勝	太尾連合A 1'32'17"	三菱自販A 1'30'04"	高木学園女子 高等学校 2'21'26"	日本大学高等学校A 1'20'13"	大綱中学校 陸上部A 55'51"	大綱中学校 陸上部A 1'06'36"
準優勝	新羽さわやか 1'36'43"	松下通信工業AVSD 1'32'30"	——	日本大学高等学校B 1'28'04"	神奈川中学校 57'20"	樽町中学校女子 バスケットボール部 1'10'09"
3 位	篠原 1'40'11"	パナボウズ 1'37'56"	——	新羽高校 1'31'57"	城郷中学校陸上部 59'53"	日吉台中学校女子 バスケットボール部1年 1'12'18"
4 位	綱島連合チーム 1'40'30"	富士食品工業(株) JC Aチーム 1'40'02"	——	——	大綱中学校陸上部B 1'00'10"	高田中学校 1'13'08"
5 位	大菅根A 1'40'43"	富士食品工業(株) JC Bチーム 1'55'49"	——	——	日吉台中学校メカ 連合DXゴスペル(MII) 1'01'16"	城郷中学校 1'13'12"
6 位	日吉 1'44'00"	NEDマラソン部 1'57'47"	——	——	慶應義塾普通部 陸上競技部A 1'03'42"	日吉台中学校 チーム陸上部(F-II) 1'15'19"

# .....第16回 港北駅伝大会.....

## 連合優勝チーム喜びの声

地域多数の皆さんの暖かい声援により4年振りに栄冠を勝ち取る事が出来、大変盛り上りました。今回積雪の影響で順延となりエントリーチーム数が減少する結果には、他地区のチーム編成がいかに大変かが現れていた様に思います。その中で太尾地区が優勝したのはうれしい事です、エントリーした2チームが無事に完走しタスキを渡し終えた事の方が重要と考えます。

小学校の協力を得、中学校の先生の情報を頼りに、又、太尾走ろう会の支援を頂き今大会に臨みました。それにもう一つ、大会予備日を一昨年より取り入れた事に関してです。今回6年生で走った選手の中に、第13回大会に3年生で代表として出場の予定が雪の為中止になり大変くやしがっていた子がいました。それが因らずも今回順延による予備日の出場となり、当時のくやしさが闘志に変わり、区間賞を取る結果となってチーム全体に弾みが



◀ 連合町内会の部表彰式

つき、優勝に大きく貢献してくれました。彼の頑張りには感謝です。

スポーツを愛する多くの地域の皆さんと、この駅伝大会を更に発展させ盛り上げる為には、チーム数の確保が必要です。太尾地区の目標は3～4チームの出場です。今後共よろしくお願い致します。

(太尾連合監督 野本 征治)

## 平成12年度 横浜市体育指導委員大会・神奈川県体育指導委員大会

平成13年1月28日(日)、横浜市体育指導委員大会が関内ホールで開催されました。港北区からは19名の体指が永年勤続表彰を受賞し、同時に行われた全国体育指導委員連合勤続30年表彰伝達式では1名が受賞しました。式典の後は『これからの生涯スポーツのあり方』のタイトルで日本体育大学教授の富田幸博氏による講演が行われ、内容は地域スポーツの今後の課題や、スポーツ振興の推

進役・コーディネーターとしての体指に期待されること、総合型地域スポーツクラブとの係わりなどに関するお話で、今後の体指活動の参考になるものでした。

また、2月4日(日)には小田原市総合文化体育館で神奈川県体育指導委員大会が開催され、港北区の体指14名が功労者表彰を受賞しました。同時開催で俳優の阿藤海氏による特別講演も行われました。

### 平成12年度各種表彰受賞者

#### 全国体育指導委員連合 30年表彰

岡野内恭子(大曾根)

#### 神奈川県体育指導委員連合会功労者表彰

近江 琴(日吉)、薄井久子(日吉)、田中初江(日吉)、大谷幸弘(綱島)、鎗水 徹(大曾根)、木本恵美(菊名)、赤城久人(師岡)、芝地康博(太尾)、松谷次郎(太尾)、内田洋子(篠原)、宮崎裕子(篠原)、竹内好之(城郷)、高橋憲吾(城郷)、小笠原亮二(あすなろ)

#### 横浜市体育指導委員永年勤続表彰

##### 【20年表彰】

和泉 誠(樽町)、野本征治(太尾)、加藤 修(篠原)、内田 達(新吉田)、千葉晃一(あすなろ)

##### 【10年表彰】

近江 琴(日吉)、薄井久子(日吉)、田中初江(日吉)、大谷幸弘(綱島)、鎗水 徹(大曾根)、木本恵美(菊名)、赤城久人(師岡)、芝地康博(太尾)、松谷次郎(太尾)、内田洋子(篠原)、宮崎裕子(篠原)、竹内好之(城郷)、高橋憲吾(城郷)、小笠原亮二(あすなろ)

## 楽しい30年をありがとう

全国体育指導委員連合30年表彰受賞者 岡野内 恭子(大曾根地区)

受賞者席に座りながら“30年”と改めて思い返してみても驚いています。知らない間に過ぎ去った年月ですが、短かったと思えるのは楽しかったからだと思うのです。良い仲間がいて、判断力・実行力のある良き指導者にも恵まれ、そして楽しい和、そこに一員として積極的に参加し地域の中で輪が広がりに知らない間に30年にもなりました。初心者水泳教室が延長してPTA校外委のプール開放へと拡がり、ジャズダンス教室が今は体操教室へ、テニス教室も同好会が出来、グラウンドゴルフ・インディアカもそれぞれ自

主運営となり、数々の教室が地域の中に根付いて行きました。暑い日中、寒い夜、雨の日などは億劫に思う事も度々ありました。何をする役目か何も知らず体指を引き受けてしまいましたが、家族の協力もあり受けた以上責任はあるもの、どうせやるなら前向きに楽しくと走り抜けて来た30年だったと思います。精一杯やったという思いと他地域の方々への感謝も込めて、たくさんの楽しい思い出をありがとうございました。

あ、名前を呼ばれました。表彰状は胸にしまって飾っておきます。

# 第5回 港北区ペタンク大会

## ペタンク大会を振り返って

港北区体育指導委員連絡協議会  
ペタンク委員長 仲沢 照雄

平成12年11月26日(日)、第5回港北区ペタンク大会が横浜ラポールグラウンドで開催されました。区内13地区から出場の52チームと一般参加12チームの計64チームの参加を得ることができ、今までにない盛大な大会となりました。

今大会では予選16ブロック全てが4チームとなり、各ブロックとも同じ条件で午前中の予選試合を行うことができました。また、各チームとも前回に増して選手のレベルが高くなっていたため、予選の段階から目が離せない好ゲームが展開されました。予選は各チーム2試合ずつ行いましたが、ブロックによっては4チームとも1勝1敗となり各試合の得失点差で予選順位を決定された所も見られ、ラポールの会場は一喜一憂の歓声と溜め息に包まれていました。

午後の決勝トーナメントでも優勝に向けて熱戦が繰り広げられ、栄冠を網島フェニックスが勝ち取り、第5回港北区ペタンク大会の幕を閉じました。

今大会で若干の課題等が見受けられましたが、次回までの宿題とさせていただきたいと存じます。事故もなく無事大会を終えることができましたのは、参加された選手、体指、大会役員の皆様のお蔭だと思います。今回の反省点を踏まえ、第6回大会に向けて選手に負けないように大会役員のレベルアップを図りたいと思います。



◀どちらのポイントになるでしょう?



白熱の決勝戦!▶



▲これからピュットを投げます

## ペタンク大会に参加して

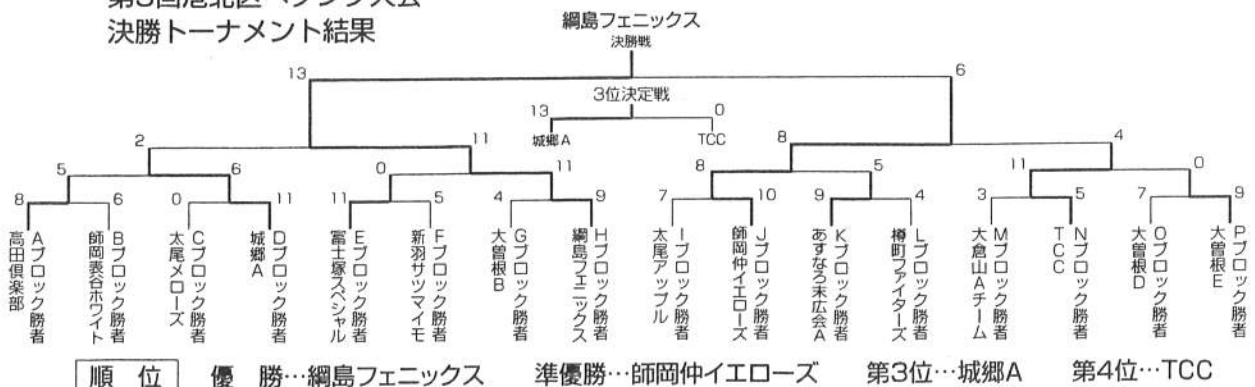
去る11月26日新横浜ラポールグラウンドに於いて港北区ペタンク大会が行われました。当日は朝から良い天気にも恵まれ絶好の大会日和になりました。出場したチームは64チーム。参加者は小学生から高齢者まで、また男女別なく参加していました。ペタンクが誰にでも楽しめるスポーツだという証明にもなりました。

開会式の後、各ブロック4チームによる予選から始まり、私たち網島フェニックスはなんとか予選通過し、午後の決勝トーナメントに出場することができました。いよいよゲームが始まると各コートからは応援の声や歓声がいっぱいです。そして私たちは決勝戦まで残りました。今日はペタンクを楽しもうと思い、参加したことが良かったのか、結果はなんと優勝。無欲の勝利でした。

最後に大会役員の皆様お疲れさまでした。そしてありがとうございました。参加者全員がペタンクを楽しめた1日になったことと思います。

(網島フェニックス 小嶋 清司)

### 第5回港北区ペタンク大会 決勝トーナメント結果



# 2001港北区スポーツシンポジウム

主催：港北区体育協会  
港北区体育指導委員連絡協議会

平成13年2月16日(金)、港北区スポーツシンポジウムがソシア21で開催されました。第1部は区体育功労者表彰と講演会で、3名の体協関係者が表彰されました。続いてスポーツジャーナリストの永井洋一氏による『W杯決勝と港北区のスポーツ振興』のタイトルで講演が行われました。永井氏は横浜市出身で、現在はサッカー関連の執筆活動をする傍ら、港北区が拠点のサッカーチーム「港北FC」のコーチも務めています。

講演の内容は、サッカーを取り巻く市区内の現状をふまえ、2002年W杯をサッカーひいては区内スポーツ振興のきっかけにしたいという氏の提言でした。

市内にはサッカー専用グラウンドが無く、サッカーが出来る場所も少ないなどW杯決勝戦開催地にしては施設が貧困で、従来の日本のスポーツ環境を考えると仕方ないが今後どうできるかという投げかけから始まりました。

まず第一に、現在整備中の新横浜公園の一角にサッカー専用グラウンド等がある「サッカーパーク」をW杯記念として造れないかという提言がありました。飲食施設や遊具設備を併設していれば家族で楽しみ、購買等の消

費行為も発生するので収入源にもなるということでした。

第二に、港北区に若手選手の登竜門となるプロサッカーチームを作りたいという提言でした。地元出身選手で構成された、地域密着型のチームを、というお話でした。

サッカーが先鞭をつけることで他競技の振興のきっかけとなり、それが区全体のスポーツ振興へ繋がればという氏の考えでした。

今までの講演とは一味も二味も違う永井氏の独創性ある意見・提案に、参加者は興味深く聞き入っていました。

スポーツシンポジウム第2部は懇親会で、永井氏も交えて区内スポーツ関係者同士の交流を深めました。



永井氏の講演

## 私のミレニアム

# 体指22期を振り返って

港北区体育指導委員連絡協議会  
会長 伊藤暢博

あまりにも早い時の流れを痛感しながら体指22期を振り返るとき、何か空しさに責められてなりません。

前の21期では国体の嵐が吹き抜けて行き、今期は先ず区制60周年のイベントへの取り組みや区行事以外の係わりなど慌ただしく過ぎ去った感さえ覚えました。

区体指の行事は特に変わりはないとしても、記念行事としての取り組みにも又、多くの時間を費やさなければなりません。

ただ、一つ一つの行事への参加者の楽しい表情を見たときこそ、改めて体指としての“本分”を再発見して喜びを感じたことも偽らざる心境です。

昨年はシドニーオリンピックが開催され、日本選手の活躍に一喜一憂もし、選手たちは取ったメダルの価値を実感しあったのではないのでしょうか…

しかし今、日本の成人が毎週ながしかのスポーツをしている割合は35%と言われていたのですが、それを50%に高めることを目標にしたとき、これからの体指活動の指針とされている“総合型地域スポーツクラブ”への展開は必要不可欠であろうと思われます。

もとより、地域スポーツの推進役として地域に精通している体指こそ、コーディネーターとしての役割を発揮し住民のニーズに答えるべき自覚も必要ではないでしょうか。ときあたかも2001年、新世紀の幕開けと共に体指22期もその任期を終えようとしています。

激動20世紀の社会の変遷の一端を生きて来た自らの歴史をひもどきながら、住民が心身ともに健康的な生活を維持するうえの“使者”としてのこれからの活動にエールを送ります。



港北区体育指導委員連絡協議会 広報委員長 内田 達

2年間は早いもので広報委員の任期も残り少なくなり、広報「活き生き体指」も、この第14号が22期最後の発行になりました。編集にあたり常に見やすい紙面をと心がけ、写真等を多目にするなど工夫をしてみました。

「活き生き体指」は、体育指導委員一人一人に届けられ情報交換に活用されてまいりました。又、体育指導委員以外の方々にも情報を幅広く提供し、その活動を認識して頂くためにも施設等に配布してまいりました。更に第

13号よりホームページを設けインターネットで情報が得られるようになりました。高齢社会が速いスピードで進む中で、健康なライフスタイルを送るには適度なスポーツは欠かせません。その意味でも地域スポーツ推進者である体育指導委員の存在はますます高まり期待されています。最後になりましたが、これまで大勢の方々から寄稿に御協力を頂き誠に有難うございました。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。